

第3章 経済概況

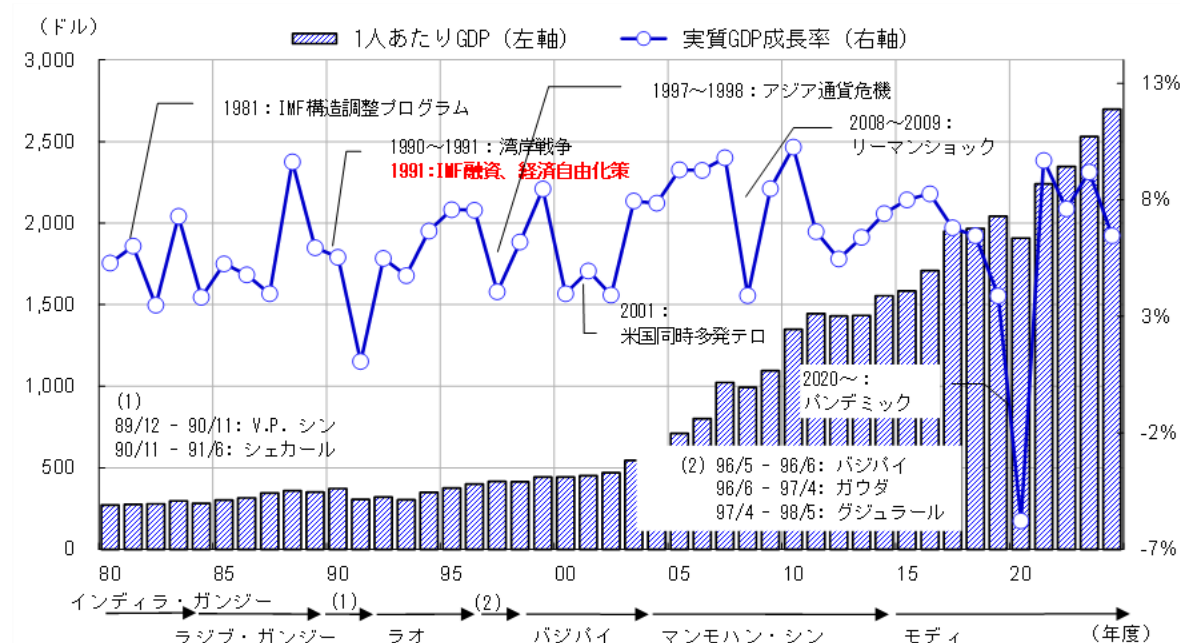
1. 経済概観

(1) インド経済の歩み

インドでは1947年の独立から1991年の経済自由化まで、ほぼ一貫して社会主義的な色彩の濃い経済運営が行われてきた。1951年には産業（開発・規制）法が制定されて新工場の建設や生産能力の増強、新製品の製造、工場の移転にはライセンスの取得が義務づけられ、1956年には産業政策決議が成立して民間企業の活動が可能な産業分野が定められた。同決議では、国家が主体となって開発を行う分野として、鉄道運輸、空運、石炭、石油・ガス、鉄鋼、通信、電力が、民間資本と国家が共に開発を行う分野として、海運、化学、アルミニウム、工作機械などが割り当てられた。また、高関税率やライセンス制による輸入規制を通じて国内産業を保護し、これによって工業化を進める戦略（輸入代替化）がとられた。しかし、このような社会主義的且つ閉鎖的な経済システムは工業部門の停滞・低生産性を招き、1950年度（1950/4～1951/3）から1980年度（1980/4～1981/3）の実質GDP成長率は年率3.7%に留まった。

1980年代に入ると、部分的にはあるが、経済自由化策がとられはじめた。1982年、1985年と輸入制限の部分的緩和が図られ、産業分野においてはエレクトロニクス分野での外資導入も図られた。1980年代の経済成長率（実質GDP成長率）は5.6%と押し上げられた。

図表 3-1 実質経済成長率と1人あたりGDPの推移（2024年の実質GDPは予測値）



（出所）IMF、世界銀行より作成

しかし、1990年に湾岸危機が発生すると、インドは経済危機を迎えることとなる。原油価格の急騰や中東諸国の出稼ぎ労働者からの送金が急減したことで、外貨準備高は1991年1月には輸入相当額の2週間分の水準まで減少した。また、対外債務の返済にも窮してしまい、インド政府はIMFから緊急融資を得ることとなった。

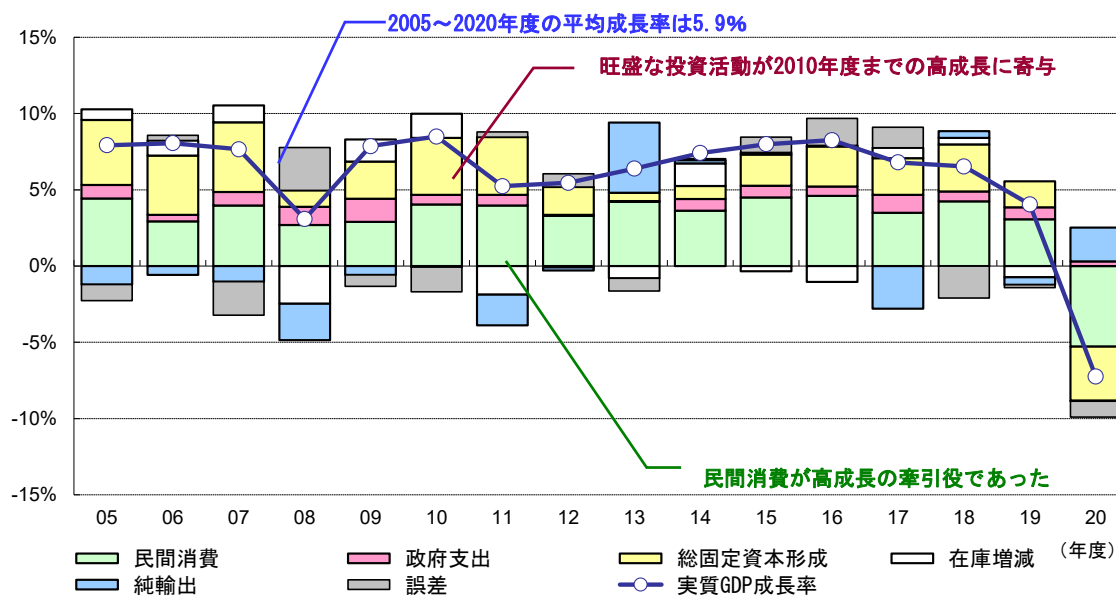
経済危機の打開に向け、インドでは1991年に経済の自由化が始まった。1991年6月に発足したラオ政権の下、金融・財政緊縮政策、通貨切り下げに加え、貿易制度の自由化や外資導入を中心とした経済の自由化が進められた。貿易制度の自由化では、資本財や原材料輸入に関するライセンス制度の撤廃、ルピーの交換性導入、輸入関税の引下げ、輸出入規制品目の見直しなどであり、外資導入では34業種において出資比率51%を上限とする外国直接投資は、中央銀行（インド準備銀行）により自動的に認可されるようになった。

経済自由化以降、1997～1998年のアジア通貨危機、2001年の米国同時多発テロ、2008～2009年のリーマン・ショックを契機とする世界同時不況はインド経済の成長率を鈍化させたものの、1992年度から20年間の経済成長率（実質GDP成長率）は6.8%と1980年代を上回り、2014年度には1人あたりGDPが1,500ドルを超えた（1,610ドル）。2014年にモディ政権が成立して以降2018年までは6～8%台の成長率を維持してきたが、2020年の世界的な新型コロナウイルスの感染拡大や印中の国境対立の影響を受け、経済は一時大幅に縮小し、同年のGDP成長率は▲5.8%と、40年ぶりのマイナス成長を記録した。他方、モディ政権による大規模な経済施策が同年から実施されたことで2021年には成長率が9.7%のプラスに転じており、パンデミック以前の水準に回復した。2024年には、総選挙を控えた第2次政権下での製造業振興策が功を奏し6.5%を記録した。2025年度の経済成長見通しは、IMFは6.2%、世界銀行は6.3%程度と、新型コロナ流行以来の低めの水準と予想されているが、以前から継続している製造業振興策や農村部を中心とした民間消費を背景に、他国に比べると順調な経済成長が続くと見込まれる。

（2）「BRICs」として注目されるインド経済

2000年代に入ると、インド経済に対する注目度も高まった。2001年には、著しい経済発展を遂げるブラジル、ロシア、インド、中国の4カ国のイニシャルから「BRICs」の呼称が初めて使われ、金融市場の機関投資家だけでなく、事業会社からの注目度も高まった。インドへの海外からの年間直接投資は、2001～2004年度の50億ドル前後から増加し、2007～2014年度には300億～400億ドルの間で、2015～2018年度では500億～600億ドル、2019年度以降は700億～800億ドル前半で推移しており、特に2021年度は848億ドルと過去最高額を更新した。2022～2023年度には700億ドル台前半と一時的な落ち込みを見せたが、2024年度は810億ドルと回復を見せている（第4章参照）。

図表 3-2 実質 GDP 成長率と要因分解



（出所）インド準備銀行より作成

インドの高い成長率を支えてきたのは、安定した民間消費の高い寄与であり、2001～2018 年度の間は、民間消費だけで毎年度 4.2%分の成長をもたらした。また、設備投資や建設投資などの総固定資本形成も成長に大きく寄与してきた。米国同時多発テロ（2001 年 9 月）、リーマン・ショック（2008 年 9 月）のように世界的に景気が悪化した際には投資が停滞してインドの経済成長率も鈍化したが、翌年度には投資が回復し、GDP 成長率は 8%前後の水準にまで回復した。

2001 年や 2008 年の外的要因以外での景気減速局面は 2011～2012 年度に訪れた。2011 年度は民間消費や総固定資本形成の成長率に対する寄与度は前年度を上回っていたが、旺盛な消費・投資活動による輸入の拡大（純輸出の悪化）が成長率を押し下げた。また、2010 年初頭から 2011 年末にかけて政策金利が 3.75 ポイント引き上げられた影響が徐々に表れ（4.75%→8.50%）、2012 年度には民間消費、総固定資本形成の伸びも鈍化した。しかし、2013 年 4 月に政策金利が 8.00%に引き下げられて以降、2013 年 8 月まで計 1.25 ポイントの利下げ効果で投資の減速も一服し、また貿易赤字も 2012 年に減少に転じたことで、再び GDP 成長率は 8%前後の水準にまで回復した。

2014 年度から 2018 年度にかけては 6～8%の成長率水準を維持してきた中、2019 年度は減速し実質 GDP 成長率が 3.9%となった。この主な理由はインドの銀行セクターにおける不良債権問題を通じた流動性の収縮や金融信用不安にあると考えられている。これに対してインド政府では倒産法（Insolvency and Bankruptcy Code : IBC）を導入し、それによって不良債権処理が進んだことにより、新型コロナウイルスの影響下でも直接投資流入額は増加傾向にあった。2021 年から 2022 年度には、メイク・イン・インド政策による製造業への投資や、デジタル、IT 分野への投資増を背景として 850 億ドル弱の最高額を記録した。その後は、世界的な金融環境の変化などを背景に 2022 年度から 2024 年度まで 700 億ドル台前半まで落ち込んだが、2025 年 5 月末の商務省の発表によると、2024 から 2025 年度には、約 810 億ドルまで回復している。

他方、図表 3-3 より、2023 年（暦年）の消費者物価上昇率は 5.6%で、過去 10 年間ではやや高い水準であった。背景としては、世界的な原油価格の上昇とインド国内の燃料税政策により、LPG

やディーゼル、ガソリンの価格が高水準で移行していることが挙げられるが、2024 年から 2025 年にかけての消費者物価上昇率は安定または低下傾向にあり、IMF は、インド準備銀行が定める目標値（ $4\pm 0.2\%$ ）以内に収まるだろうと予測している。

貿易収支（商工省統計）は、2020 年は新型コロナウイルスの影響により赤字幅が少し減少したものの、2016 年初より原油価格が上昇基調に転じたことや、中国からの電機製品の輸入増の影響で、赤字幅は拡大傾向にある。2023 年（暦年）の貿易赤字は 2,411 億ドルと、過去最大だった 2022 年（2,649 億ドル）に続く二番目の高水準となった。

図表 3-3 主要経済指標

	単位	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
名目GDP (*)	億ドル	20,391	21,036	22,948	26,515	27,029	28,356	26,749	31,673	33,461	36,385
1人あたりGDP (*)	ドル	1,560	1,590	1,714	1,958	1,974	2,050	1,916	2,250	2,361	2,547
実質GDP成長率 (*)	%	7.4	8.0	8.3	6.8	6.5	3.9	-5.8	9.7	7.6	9.2
人口 (*)	100万人	1,307	1,323	1,339	1,354	1,369	1,383	1,396	1,408	1,417	1,429
消費者物価上昇率	%	6.7	4.9	4.9	3.3	3.9	3.7	6.6	5.1	6.7	5.6
輸出額	億ドル	3,103	2,623	2,759	3,035	3,301	3,134	2,918	4,220	4,511	4,371
輸入額	億ドル	4,480	3,810	3,844	4,656	5,141	4,747	3,944	6,131	7,160	6,782
貿易収支 (*)	億ドル	-1,376	-1,187	-1,085	-1,621	-1,840	-1,613	-1,026	-1,910	-2,649	-2,411
経常収支 (*)	億ドル	-269	-222	-144	-487	-573	-247	239	-388	-671	-233
直接投資流入額 (*)	億ドル	451	556	602	610	620	744	820	848	714	709
外貨準備高 (*)	億ドル	3,416	3,602	3,700	4,245	4,129	4,778	5,770	6,073	5,784	6,464
為替レート（年平均）	ルピー/ドル	61.03	64.15	67.20	65.12	68.39	70.42	74.10	73.92	78.60	82.60

（注）（*）は年度で算出。2023 年の数値は 2023 年 4 月から 2024 年 3 月までの年度を表す。

（出所）IMF、商工省、インド準備銀行より作成

（3）新型コロナウイルス感染拡大の影響とその後の経済の力強い回復

世界的な流行と同じく、インドでも 2020 年 3 月から新型コロナウイルス感染症が拡大したため、この第 1 波に対してインド政府は、都市間移動を制限したほか、生活必需品（食料品や医薬品など）以外を販売する店舗を営業禁止にするなど、厳格なロックダウンを実施した。これにより、特に民間消費と総固定資本形成（投資）が大きく影響を受け、2020 年度第 1 四半期（2020/4～6）の実質 GDP 成長率（前年同期比）は▲23.1%と大幅に低下し、第 2 四半期（2020/6～8）も前年同期比▲5.8%と低迷が続いた。第 1 波の影響が続く中、インド政府では、特に影響を受けると考えられる低所得者層への現金支給や食料品供給、中小企業向けの無担保ローン、農林水畜産業関連のインフラ整備、医療のデジタル化などを含む総額 20 兆ルピーの経済対策パッケージを展開すると発表し、パンデミックの影響下においても経済の活性化を行うことを表明した。

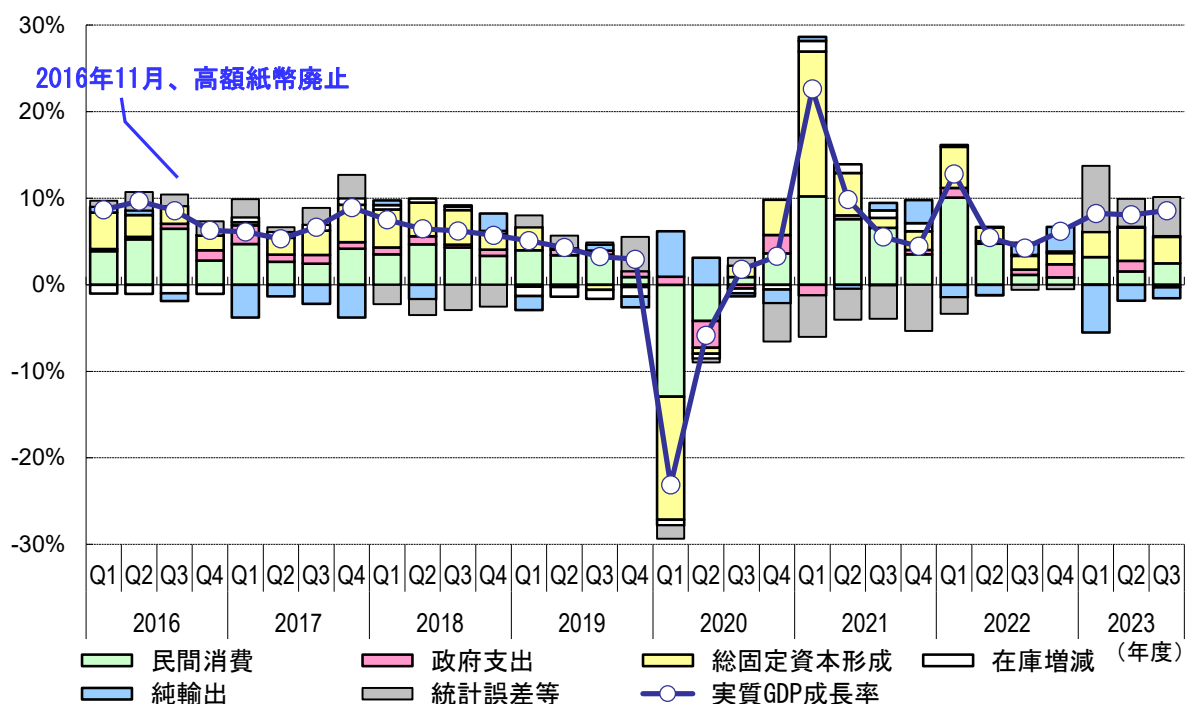
その後も変異種流行や医療崩壊に見舞われる中、モディ政権はワクチン接種の普及に力を入れ、2021 年 3 月から到来した感染第 2 波にはパンデミック当初のようなインド全土でのロックダウンを行わず、経済活動の正常化を模索する方針をとった。この第 2 波による経済への悪影響を軽減するため、政府は 2021 年 6 月に総額 6.3 兆ルピーの追加経済対策を発表した。

これには、中小企業向けの保証枠拡大や、肥料補助金による農業支援、外国人観光客のビザ手

数料免除による観光業支援などが含まれる。

このような経済政策の結果、2021年度第1四半期以降、特に2023年度は各四半期ともおおそ8%と、手堅い成長を見せている。今後も、製造業振興策や農村部を中心とした民間消費を背景に順調な成長が続くと考えられる。

図表 3-4 実質 GDP 成長率（四半期）の推移（2016 年度～2023 年度第 3 四半期）



（出所）国家統計局より作成

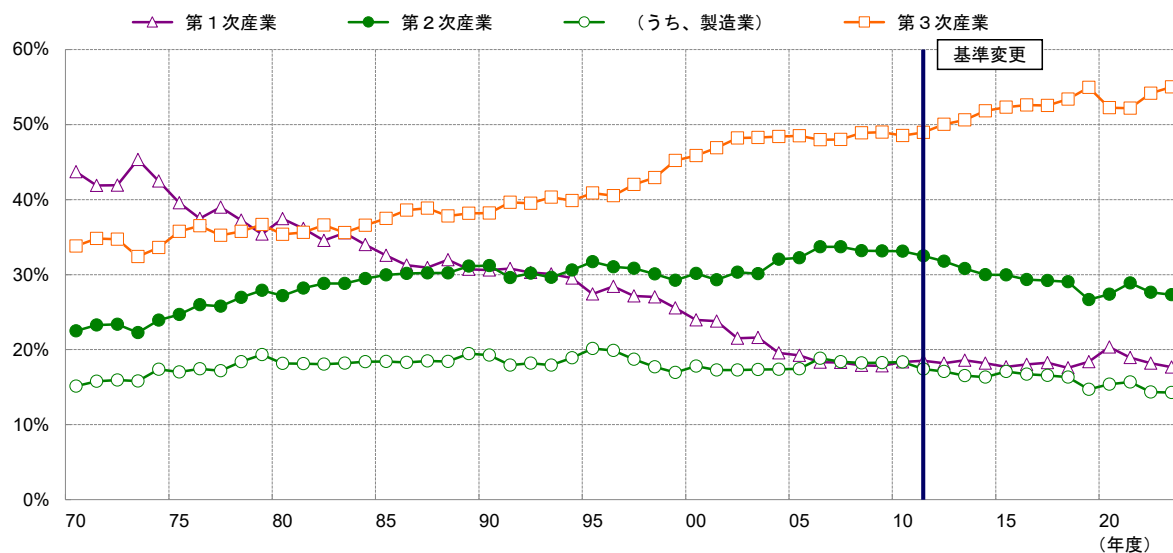
2. 産業構造

1970年代前半のインド経済では、第1次産業がGDP全体の4割、第3次産業が同3割、第2次産業は同2割を占めていた。名目GDPの算出基準が2011年に改訂されたため、産業別構成比の連続性を判断するには留意が必要だが、①第1次産業は1974年度から現在に至るまで長期にわたって比率が低下、②第2次産業に含まれる製造業では、1974年度以降、比率はほぼ一定、③第2次産業全体では、1974年度から2007年度にかけて比率は緩やかに上昇するも、2006年度をピークとした低下基調、④第3次産業は1974年度以降の上昇基調が継続、などの特徴が窺える（図表3-5）。

2023年度の産業別GDPの構成比について、2013年との変化幅を見ると（図表3-6）、第2次産業（▲3.0%）から第3次産業（+3.8%）へのシフトが継続していることが分かる。第1次産業については、農業（▲2.4%）が縮小する一方で、畜産業（+1.4%）の伸びがあり、第1次産業全体としては縮小した。第2次産業においては、繊維・衣料・皮革製品（▲0.9%）や金属製品（▲0.6%）、鉱業・採石業（▲0.9%）での縮小が目立ち、製造業全体では2.2%のマイナスとなった。他方、第

3 次産業では不動産・専門サービス (+2.8%) や公共サービス (+1.4%) での伸びが目立った。

図表 3-5 第 1～3 次産業の構成比の推移 (1970 年～2023 年)



(出所) 国連統計部 National Accounts – Analysis of Main Aggregates より作成

図表 3-6 産業別名目 GDP の構成比（2013 年度及び 2023 年度）

(金額：10億ルピー)	名目GDP			構成比		
	2014/3	2024/3	(年率)	2014/3	2024/3	(差分)
全体	103,632	274,129	10.2%	(100.0%)	(100.0%)	(+0.0%)
第1次産業	19,264	48,779	9.7%	(18.6%)	(17.8%)	(-0.8%)
農業	12,488	26,529	7.8%	(12.1%)	(9.7%)	(-2.4%)
畜産業	4,227	15,056	13.5%	(4.1%)	(5.5%)	(+1.4%)
林業	1,567	3,512	8.4%	(1.5%)	(1.3%)	(-0.2%)
漁業	982	3,681	14.1%	(0.9%)	(1.3%)	(+0.4%)
第2次産業	31,909	76,220	9.1%	(30.8%)	(27.8%)	(-3.0%)
鉱業・採石業	2,958	5,323	6.1%	(2.9%)	(1.9%)	(-0.9%)
製造業	17,135	39,216	8.6%	(16.5%)	(14.3%)	(-2.2%)
食品・飲料・タバコ	1,757	3,802	8.0%	(1.7%)	(1.4%)	(-0.3%)
繊維・衣料・皮革製品	2,464	4,178	5.4%	(2.4%)	(1.5%)	(-0.9%)
金属製品	2,870	5,859	7.4%	(2.8%)	(2.1%)	(-0.6%)
機械	3,434	9,747	11.0%	(3.3%)	(3.6%)	(+0.2%)
その他製造業	6,610	15,629	9.0%	(6.4%)	(5.7%)	(-0.7%)
公益業	2,602	7,664	11.4%	(2.5%)	(2.8%)	(+0.3%)
建設業	9,215	24,016	10.1%	(8.9%)	(8.8%)	(-0.1%)
第3次産業	52,459	149,130	11.0%	(50.6%)	(54.4%)	(+3.8%)
商業・ホテル・運輸・通信・放送	18,745	48,285	9.9%	(18.1%)	(17.6%)	(-0.5%)
商業・ホテル・レストラン	11,846	31,285	10.2%	(11.4%)	(11.4%)	(-0.0%)
商業	10,784	28,120	10.1%	(10.4%)	(10.3%)	(-0.1%)
ホテル・レストラン	1,061	3,165	11.5%	(1.0%)	(1.2%)	(+0.1%)
運輸・倉庫・通信・放送	6,899	17,000	9.4%	(6.7%)	(6.2%)	(-0.5%)
鉄道輸送	787	1,787	8.5%	(0.8%)	(0.7%)	(-0.1%)
道路輸送	3,383	7,736	8.6%	(3.3%)	(2.8%)	(-0.4%)
水上輸送	65	225	13.3%	(0.1%)	(0.1%)	(+0.0%)
航空輸送	69	331	17.1%	(0.1%)	(0.1%)	(+0.1%)
輸送関連サービス	757	1,834	9.3%	(0.7%)	(0.7%)	(-0.1%)
倉庫	60	282	16.7%	(0.1%)	(0.1%)	(+0.0%)
通信・放送	1,778	4,804	10.4%	(1.7%)	(1.8%)	(+0.0%)
金融・不動産・専門サービス	20,695	62,442	11.7%	(20.0%)	(22.8%)	(+2.8%)
金融サービス	5,993	15,982	10.3%	(5.8%)	(5.8%)	(+0.0%)
不動産・専門サービス	14,702	46,460	12.2%	(14.2%)	(16.9%)	(+2.8%)
公共サービス	13,019	38,404	11.4%	(12.6%)	(14.0%)	(+1.4%)
行政・防衛	6,019	15,997	10.3%	(5.8%)	(5.8%)	(+0.0%)
その他サービス	7,000	22,406	12.3%	(6.8%)	(8.2%)	(+1.4%)

(注) インドでは鉱業・採石業を第2次産業として分類しているため、第1次産業と第2次産業の構成比は図表 3-5 と一致しない。

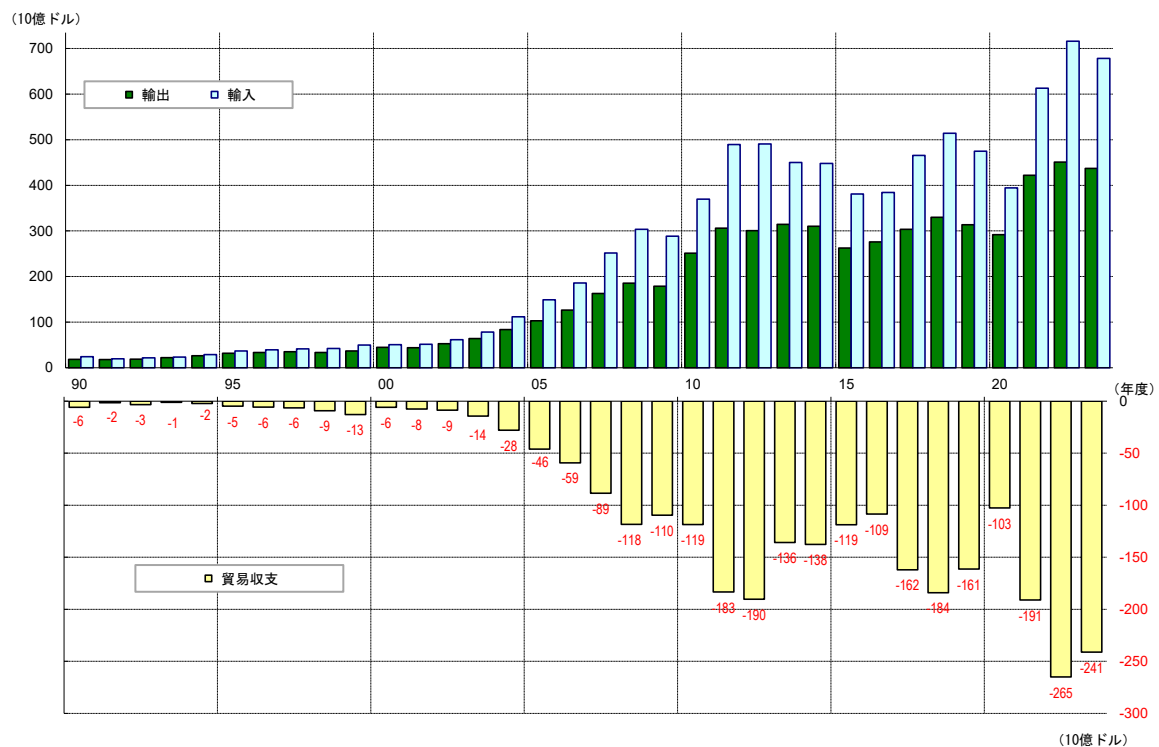
(出所) 統計・計画実施省 National Accounts Statistics 2025 より作成

3. 貿易構造

(1) 輸出・輸入・貿易収支の推移

インドは恒常的な貿易赤字国である。インド準備銀行（RBI）の貿易統計によると、同国は1976年度における7,700万ドルの貿易黒字を最後に、2023年度まで47年連続で貿易赤字が続いている。インドは石油製品や石炭の純輸入国であるため、2004年以降の原油価格上昇に伴い、赤字幅は拡大した。2020年度はパンデミックの影響で輸入が減少したことにより貿易赤字も一時的に縮小したが、それ以降は石炭・石油やプラスチック等の化学製品、機械類・輸送用機器の輸入増加により拡大傾向にある。

図表 3-7 輸出・輸入と貿易収支の推移



(出所) 商業情報統計総局（DGCI&S）より作成

(2) 品目別輸出・輸入の動向

UNCTAD（国際連合貿易開発会議、United Nations Conference on Trade and Development）の統計によると、2023年（暦年）の輸出額は4,314億ドルと、前年よりは212億ドル減少したものの、4,000億ドル以上を記録し、2010年以降の各年と比較しても、2022年に次ぐ高水準となった。

セグメント別に見た主な輸出分野では①自動車・バイクなどを含む「機械類・輸送用機器」（構成比：20.8%）、②石油や石油製品を含む鉱物性燃料等（同 20.7%）、③素材製造品（皮革、紙、鉄鋼など）（同 20.2%）の比率が高い。

中でも、石油や石油製品を含む鉱物性燃料等に関して、インドは原油を加工したガソリンや航

空燃料、ディーゼルなどの石油製品を輸出しているが、世界的なエネルギー価格の高騰などを受けて石油製品の価格も上昇し、輸出額は2020年と比較して300%以上伸びた。次いで、自動車・バイクなどを含む「機械類・輸送用機器」に関してもPLIスキーム等を通じた奨励策のもとで生産、輸出共に増加傾向にある。

図表 3-8 主要輸出品目

(100万ドル/暦年)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
輸出総額	220,408	301,483	289,565	336,611	317,545	264,381	260,327	294,364	322,492	323,251	275,489	394,814	452,684	431,412
	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)
食料品・動物	15,494	23,228	26,842	33,565	31,969	26,330	25,537	30,395	30,132	29,802	31,199	40,339	45,274	42,111
	(7.0%)	(7.7%)	(9.3%)	(10.0%)	(10.1%)	(10.0%)	(9.8%)	(10.3%)	(9.3%)	(9.2%)	(11.3%)	(10.2%)	(10.0%)	(9.8%)
魚介類・同調製品	2,403	3,345	3,362	4,728	5,500	4,778	5,499	7,019	6,811	6,766	5,746	7,453	7,631	7,022
穀物・同調製品	3,136	5,704	9,132	11,405	10,598	7,380	6,096	7,883	8,284	7,647	9,309	13,103	15,044	12,096
飲料・たばこ	1,006	970	1,126	1,325	1,189	1,153	1,224	1,163	1,224	1,203	1,070	1,178	1,491	1,655
	(0.5%)	(0.3%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.5%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.3%)	(0.3%)	(0.4%)
食料に適さない原材料	15,449	16,351	18,977	16,054	12,773	9,280	9,081	10,546	10,831	10,560	11,532	14,486	11,013	12,372
	(7.0%)	(5.4%)	(6.6%)	(4.8%)	(4.0%)	(3.5%)	(3.5%)	(3.6%)	(3.4%)	(3.3%)	(4.2%)	(3.7%)	(2.4%)	(2.9%)
鉱物性燃料等	37,976	56,554	54,377	69,567	62,347	31,387	27,704	35,871	48,591	44,532	27,633	56,398	98,470	89,328
	(17.2%)	(18.8%)	(18.8%)	(20.7%)	(19.6%)	(11.9%)	(10.6%)	(12.2%)	(15.1%)	(13.8%)	(10.0%)	(14.3%)	(21.8%)	(20.7%)
石油・同製品	37,558	55,784	53,903	69,052	61,970	30,986	27,411	35,498	47,959	43,514	26,805	54,796	96,858	87,204
動植物性油脂	788	1,181	1,038	1,119	1,008	1,063	950	1,419	1,328	1,370	1,574	1,939	2,326	2,228
	(0.4%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.3%)	(0.3%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.5%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.6%)	(0.5%)	(0.5%)	(0.5%)
化学製品	23,577	31,257	34,502	39,430	37,118	35,946	36,689	40,916	50,071	53,104	52,693	62,291	65,166	62,161
	(10.7%)	(10.4%)	(11.9%)	(11.7%)	(11.7%)	(13.6%)	(14.1%)	(13.9%)	(15.5%)	(16.4%)	(19.1%)	(15.8%)	(14.4%)	(14.4%)
有機化合物	7,735	10,154	11,564	12,171	10,967	10,124	10,083	12,320	16,462	16,736	15,987	19,770	20,320	17,883
医薬品	7,124	9,503	10,860	13,174	12,935	13,903	14,391	14,276	15,755	17,859	20,030	21,012	21,521	23,166
素材製造品(皮革、紙、鉄鋼等)	62,439	75,685	67,158	83,032	76,837	68,751	68,058	79,101	81,139	76,241	66,775	107,651	100,626	87,029
	(28.3%)	(25.1%)	(23.2%)	(24.7%)	(24.2%)	(26.0%)	(26.1%)	(26.9%)	(25.2%)	(23.6%)	(24.2%)	(27.3%)	(22.2%)	(20.2%)
織物用糸・繊維製品	12,833	15,340	15,274	18,907	18,266	17,263	16,121	17,078	18,115	17,189	15,042	22,233	19,339	18,042
非金属鉱物製品	24,395	34,771	24,979	33,011	27,496	25,456	27,787	28,668	30,419	27,167	20,476	32,274	32,067	26,248
鉄鋼	10,612	10,471	10,885	12,725	11,540	8,289	8,245	13,905	12,147	12,064	12,562	23,610	18,399	15,070
非鉄金属	7,104	4,562	4,382	5,261	6,003	5,747	4,497	7,091	6,808	5,882	6,455	11,606	11,449	9,458
金属製品	4,169	6,063	6,777	7,430	7,953	7,113	6,546	7,065	7,551	7,737	6,793	9,492	10,466	10,256
機械類・輸送用機器	31,931	41,921	39,729	46,100	48,579	43,325	43,358	48,881	57,014	61,678	50,630	68,289	79,470	89,614
	(14.5%)	(13.9%)	(13.7%)	(13.7%)	(15.3%)	(16.4%)	(16.7%)	(16.6%)	(17.7%)	(19.1%)	(18.4%)	(17.3%)	(17.6%)	(20.8%)
原動機	2,335	2,855	2,816	3,511	3,991	3,637	4,205	5,780	8,308	8,819	7,697	9,072	10,539	10,882
専門機械	2,230	3,342	3,465	3,931	4,233	4,101	3,866	4,428	5,276	5,036	4,406	6,930	7,991	7,913
その他産業機械・部品	3,886	4,856	5,171	6,292	6,137	6,179	6,115	7,015	7,890	8,466	7,316	10,035	11,487	12,254
電気機器	5,522	5,576	5,330	6,227	6,218	5,975	6,077	6,631	8,387	8,934	7,673	10,133	12,754	13,909
自動車・バイク等	8,746	9,501	11,420	12,871	13,519	13,079	14,098	15,302	17,354	16,661	12,298	17,667	19,788	19,795
その他輸送用機器	5,804	9,457	6,012	7,916	11,405	7,923	6,422	7,216	6,083	7,631	5,696	5,777	4,774	6,528
雑製品	27,174	40,026	43,174	38,937	42,297	39,522	42,563	43,171	41,968	44,433	31,995	42,138	46,922	44,804
	(12.3%)	(13.3%)	(14.9%)	(11.6%)	(13.3%)	(14.9%)	(16.3%)	(14.7%)	(13.0%)	(13.7%)	(11.6%)	(10.7%)	(10.4%)	(10.4%)
衣類・同附属品	11,229	14,672	13,833	16,843	17,650	18,168	17,932	18,313	16,552	17,160	12,973	16,150	17,641	15,366
その他	4,576	14,310	2,641	7,482	3,427	7,624	5,163	2,901	194	327	388	106	1,926	110
	(2.1%)	(4.7%)	(0.9%)	(2.2%)	(1.1%)	(2.9%)	(2.0%)	(1.0%)	(0.1%)	(0.1%)	(0.1%)	(0.0%)	(0.4%)	(0.0%)

(出所) UNCTAD Stat より作成

2023年の輸入総額は6,721億ドルとなり、前年2022年に続き、2010年以降2番目に高い金額を記録した。セグメント別に見た主な輸入分野は①「鉱物性燃料など」(構成比:28.8%)、②「機械類・輸送用機器」(同:24.2%)、③「素材製造品(皮革、紙、鉄鋼等)」(同12.6%)である。

輸出と同様、世界的なエネルギー価格の高騰を受け、石炭や石油、天然ガス等の「鉱物性燃料など」の輸入額が大きく伸びている。その他、インフラ整備や製造業の強化に伴い、「機械類・輸送用機器」や「素材製造品(皮革、紙、鉄鋼等)」の輸入額も大幅に伸びている。

図表 3-9 主要輸入品目

(100万ドル/暦年)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
輸入総額	350,029 (100.0%)	462,403 (100.0%)	488,976 (100.0%)	466,046 (100.0%)	459,369 (100.0%)	390,745 (100.0%)	356,705 (100.0%)	444,052 (100.0%)	507,616 (100.0%)	478,884 (100.0%)	367,980 (100.0%)	570,402 (100.0%)	732,566 (100.0%)	672,140 (100.0%)
食料品・動物	5,767 (1.6%)	6,014 (1.3%)	6,700 (1.4%)	6,684 (1.4%)	7,960 (1.7%)	9,610 (2.5%)	10,403 (2.9%)	11,557 (2.6%)	7,923 (1.6%)	7,839 (1.6%)	8,229 (2.2%)	9,429 (1.7%)	10,249 (1.4%)	12,408 (1.8%)
生きた動物	13	16	15	14	13	13	10	10	12	13	12	10	10	14
肉類・同調製品	7	8	9	10	18	7	11	18	12	8	10	13	15	15
酪農品・鳥卵	195	227	82	41	53	55	47	52	42	49	44	43	51	73
魚介類・同調製品	55	111	64	47	83	139	86	81	99	119	128	143	179	168
穀物・同調製品	183	89	99	163	208	253	706	1,190	163	271	192	185	301	282
果実・野菜	3,209	4,306	4,635	4,684	5,305	6,991	6,883	7,215	4,907	4,901	5,077	6,026	6,624	7,701
飲料・たばこ	260 (0.1%)	337 (0.1%)	338 (0.1%)	364 (0.1%)	424 (0.1%)	414 (0.1%)	440 (0.1%)	512 (0.1%)	581 (0.1%)	620 (0.1%)	379 (0.1%)	605 (0.1%)	1,006 (0.1%)	1,195 (0.2%)
食料に適さない原材料	17,186 (4.9%)	22,974 (5.0%)	25,397 (5.2%)	23,033 (4.9%)	24,021 (5.2%)	20,367 (5.2%)	17,773 (5.0%)	21,923 (4.9%)	24,222 (4.8%)	22,126 (4.6%)	17,221 (4.7%)	28,376 (5.0%)	36,499 (5.0%)	33,386 (5.0%)
金属鉱・くず	9,861	12,874	13,769	12,859	13,235	10,826	8,372	11,738	12,869	10,637	8,630	15,236	19,266	18,674
鉱物性燃料等	99,258 (28.4%)	148,559 (32.1%)	169,958 (34.8%)	161,202 (34.6%)	159,322 (34.7%)	95,221 (24.4%)	80,637 (22.6%)	109,559 (24.7%)	151,979 (29.9%)	137,582 (28.7%)	90,941 (24.7%)	148,584 (26.0%)	250,207 (34.2%)	193,608 (28.8%)
石炭・コークス・練炭	10,871	16,440	15,973	15,870	16,507	13,826	12,527	20,555	25,179	22,399	15,474	24,187	47,739	35,381
石油・同製品	81,101	118,764	138,752	129,941	124,079	69,827	58,257	75,478	109,323	99,628	61,235	101,869	173,708	136,243
天然ガス・製造ガス	7,286	13,355	15,143	15,391	18,736	11,496	9,854	13,475	17,434	15,555	14,232	3	28,747	21,975
動植物性油脂	7,557 (2.2%)	10,253 (2.2%)	11,457 (2.3%)	10,470 (2.2%)	11,286 (2.5%)	10,836 (2.8%)	10,728 (3.0%)	12,632 (2.8%)	10,943 (2.2%)	10,377 (2.2%)	11,127 (3.0%)	18,300 (3.2%)	22,906 (3.1%)	15,944 (2.4%)
植物性油脂	7,301	9,914	11,194	10,171	10,988	10,607	10,384	12,044	10,200	9,740	10,554	17,288	21,763	15,126
化学製品	38,265 (10.9%)	47,342 (10.2%)	46,847 (9.6%)	46,535 (10.0%)	51,994 (11.3%)	47,963 (12.3%)	44,192 (12.4%)	51,310 (11.6%)	60,351 (11.9%)	59,292 (12.4%)	54,650 (14.9%)	78,917 (13.8%)	94,196 (12.9%)	83,107 (12.4%)
有機化合物	11,835	14,464	15,162	16,335	18,470	14,886	14,010	17,780	21,062	19,348	17,381	26,158	28,183	24,932
プラスチック（成型前）	6,566	6,898	7,945	8,256	10,382	9,045	9,057	10,812	11,702	11,028	9,300	15,134	17,613	17,989
素材製造品（皮革、紙、鉄鋼等）	61,027 (17.4%)	75,976 (16.4%)	58,302 (11.9%)	66,223 (14.2%)	67,452 (14.7%)	62,105 (15.9%)	59,799 (16.8%)	70,082 (15.8%)	74,414 (14.7%)	68,085 (14.2%)	48,452 (13.2%)	75,024 (13.2%)	94,012 (12.8%)	84,953 (12.6%)
非金属鉱物製品	33,445	39,332	26,802	32,197	30,354	26,157	29,319	34,073	32,064	28,300	20,712	34,353	39,085	35,163
鉄鋼	10,687	12,192	11,236	8,984	10,594	10,414	8,050	9,011	10,983	10,501	6,617	10,409	13,699	14,149
非鉄金属	5,585	10,174	7,037	10,881	11,582	10,792	8,026	10,968	13,447	11,432	8,108	12,050	19,420	15,260
機械類・輸送用機器	71,813 (20.5%)	86,508 (18.7%)	81,872 (16.7%)	80,866 (17.4%)	80,172 (17.5%)	84,421 (21.6%)	86,162 (24.2%)	102,921 (23.2%)	117,034 (23.1%)	113,574 (23.7%)	93,776 (25.5%)	124,849 (21.9%)	148,652 (20.3%)	162,440 (24.2%)
専門機械	7,695	9,743	8,679	8,011	7,665	7,601	8,224	9,134	10,458	10,039	7,550	10,642	12,870	13,628
その他産業機械・部品	11,090	14,246	13,225	12,027	12,106	12,284	12,762	13,006	15,598	15,341	12,529	16,325	18,268	19,647
事務用機器・コンピュータ	6,436	7,694	7,695	8,311	8,029	8,666	7,620	22,500	22,110	21,397	19,518	26,705	24,546	24,774
通信・音響機器	13,991	15,071	13,441	15,188	17,763	21,018	20,969	14,556	15,163	11,331	10,589	11,057	15,537	14,863
電気機器	12,055	16,334	14,729	14,987	14,245	15,375	17,128	21,192	27,818	29,494	24,550	36,695	46,235	54,562
雑製品	12,280 (3.5%)	15,776 (3.4%)	20,499 (4.2%)	16,775 (3.6%)	17,656 (3.8%)	18,212 (4.7%)	19,072 (5.3%)	21,677 (4.9%)	21,707 (4.3%)	22,308 (4.7%)	16,938 (4.6%)	22,747 (4.0%)	29,134 (4.0%)	33,512 (5.0%)
その他	36,617 (10.5%)	48,664 (10.5%)	67,606 (13.8%)	53,893 (11.6%)	39,082 (8.5%)	41,595 (10.6%)	27,500 (7.7%)	41,879 (9.4%)	38,461 (7.6%)	37,081 (7.7%)	26,268 (7.1%)	63,571 (11.1%)	45,706 (6.2%)	51,586 (7.7%)

（出所）UNCTAD Stat より作成

(3) 輸出入の相手国別動向

石油製品の輸出入が多いため、インドの貿易相手国の構成比は原油価格によって大きく変動する。

2023 年の主な輸出相手国は、①米国（構成比：17.6%）、②UAE（同 7.7%）、③オランダ（同 5.4%）、④中国（同 3.8%）、⑤シンガポール（同 2.8%）である。2010 年の米国向けの構成比は 10.7%であったが、その後「医薬品」、「衣類関連（衣類、繊維製品）」、「自動車」の増加が牽引し、2023 年には 17.6%に高まっている。中国は、2020 年時点では第 2 位の輸出相手国であったが、現在は第 4 位に下がっている。背景として、2020 年 6 月に発生した国境係争地ラダック地方での衝突による政治的緊張が、貿易にも波及していると考えられる。

他方、主な輸入相手国（2023 年）は、①中国（構成比：18.0%）、②米国（同 6.5%）、③UAE（同 5.9%）、④サウジアラビア（同 5.2%）、⑤イラク（同 4.6%）となっている。中国の構成比は 2010 年の 12.9%から大幅に上昇しており、2018 年には 16%を下回ったものの、2023 年には 18.0%と再び上昇している。インド政府は 2020 年 5 月より「自立したインド」政策による国内製造業の振興を図っているが、依然として中国からの輸入依存度は高い。エネルギー資源国であるサウジアラビアや UAE、イラク、オーストラリアからの輸入はおおよそ 2 倍以上に増えており、インド国内での需要増とエネルギー価格の高騰が影響していると考えられる。また、それ以外ではインドネシアからの輸入額も、ここ 2-3 年で 2 倍以上に増えており、内訳としては「食料品全般」や「機械類及び輸送用機器」が顕著に増加している。

国別の貿易統計をもとに、貿易額の大きい国との貿易収支を見ると、インドは恒常的な貿易赤字国であり、特に中国との貿易赤字は、2020 年には約 468 億ドルであったが、ここ 2、3 年で赤字が急拡大し、2022 年から 2 年連続で 1,000 億ドルを突破している。貿易赤字全体のうち、4 割以上が中国からのものである。2014 年に始まったメイク・イン・インディア施策の目標の一つとして、国内製造業の育成による輸入依存や貿易赤字からの脱却が掲げられていたが、スマートフォンや IC チップ、記憶媒体等のエレクトロニクス製品や医薬品の原材料を中心に中国への輸入依存が依然続いており、貿易赤字は解消されていない。他方、アメリカやオランダとの貿易は好調で、安定して黒字である。また、南アジアの近隣諸国（スリランカ、バングラデシュ、ネパール、パキスタン）に対する黒字傾向も継続している（図表 3-12）。

図表 3-10 主要輸出相手国

(単位：100万ドル/暦年)		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
輸出		317,545 100.0%	264,381 100.0%	260,327 100.0%	294,364 100.0%	322,492 100.0%	323,251 100.0%	275,489 100.0%	394,814 100.0%	452,684 100.0%	431,412 100.0%
先進国	日本	5,757 1.8%	4,530 1.7%	3,827 1.5%	4,498 1.5%	4,741 1.5%	4,816 1.5%	4,043 1.5%	6,077 1.5%	5,700 1.3%	5,084 1.2%
	韓国	4,795 1.5%	3,610 1.4%	3,465 1.3%	4,377 1.5%	4,807 1.5%	4,654 1.4%	4,516 1.6%	7,103 1.8%	7,498 1.7%	6,285 1.5%
	香港	13,412 4.2%	12,147 4.6%	13,210 5.1%	15,021 5.1%	13,140 4.1%	11,478 3.6%	9,537 3.5%	11,290 2.9%	9,798 2.2%	8,731 2.0%
	シンガポール	9,677 3.0%	7,805 3.0%	7,355 2.8%	11,560 3.9%	10,451 3.2%	10,739 3.3%	8,295 3.0%	10,650 2.7%	11,831 2.6%	12,036 2.8%
	米国	42,685 13.4%	40,313 15.2%	41,992 16.1%	46,018 15.6%	51,661 16.0%	54,288 16.8%	49,321 17.9%	71,510 18.1%	80,230 17.7%	75,805 17.6%
	フランス	5,093 1.6%	4,819 1.8%	4,868 1.9%	5,037 1.7%	5,279 1.6%	5,434 1.7%	4,364 1.6%	6,130 1.6%	8,048 1.8%	7,188 1.7%
	イタリア	5,446 1.7%	4,228 1.6%	4,464 1.7%	5,655 1.9%	5,522 1.7%	5,190 1.6%	4,348 1.6%	7,704 2.0%	8,509 1.9%	8,399 1.9%
	オーストラリア	2,594 0.8%	3,253 1.2%	2,948 1.1%	3,876 1.3%	3,734 1.2%	2,974 0.9%	3,471 1.3%	6,917 1.8%	8,208 1.8%	7,722 1.8%
	オランダ	6,762 2.1%	4,877 1.8%	4,868 1.9%	5,431 1.8%	8,660 2.7%	8,907 2.8%	6,261 2.3%	10,284 2.6%	18,500 4.1%	23,108 5.4%
発展途上国	アジア	160,846 50.7%	130,527 49.4%	127,519 49.0%	148,053 50.3%	158,868 49.3%	154,920 47.9%	128,922 46.8%	179,526 45.5%	193,619 42.8%	177,743 41.2%
	中国	13,434 4.2%	9,577 3.6%	8,916 3.4%	12,495 4.2%	16,376 5.1%	17,279 5.3%	19,008 6.9%	23,037 5.8%	15,084 3.3%	16,245 3.8%
	スリランカ	6,435 2.0%	5,501 2.1%	4,118 1.6%	4,413 1.5%	4,668 1.4%	4,227 1.3%	3,224 1.2%	4,800 1.2%	6,334 1.4%	3,578 0.8%
	バングラデシュ	6,255 2.0%	5,522 2.1%	5,669 2.2%	7,210 2.4%	8,745 2.7%	8,243 2.6%	7,913 2.9%	14,093 3.6%	13,834 3.1%	11,253 2.6%
	ネパール	4,193 1.3%	3,195 1.2%	4,526 1.7%	5,518 1.9%	7,301 2.3%	7,109 2.2%	5,855 2.1%	9,190 2.3%	8,531 1.9%	7,248 1.7%
	タイ	3,439 1.1%	3,114 1.2%	2,962 1.1%	3,589 1.2%	4,386 1.4%	4,332 1.3%	3,777 1.4%	5,516 1.4%	6,039 1.3%	5,057 1.2%
	ベトナム	6,527 2.1%	5,357 2.0%	5,958 2.3%	8,115 2.8%	6,702 2.1%	5,513 1.7%	4,501 1.6%	6,638 1.7%	5,881 1.3%	5,652 1.3%
	マレーシア	4,642 1.5%	4,892 1.9%	4,189 1.6%	5,546 1.9%	6,554 2.0%	6,269 1.9%	6,194 2.2%	6,704 1.7%	7,191 1.6%	6,678 1.5%
	インドネシア	4,445 1.4%	2,869 1.1%	3,132 1.2%	3,763 1.3%	4,793 1.5%	4,515 1.4%	4,364 1.6%	8,089 2.0%	9,867 2.2%	7,398 1.7%
	中東	32,920 10.4%	29,990 11.3%	30,042 11.5%	28,636 9.7%	28,540 8.8%	29,539 9.1%	17,953 6.5%	25,447 6.4%	31,323 6.9%	33,021 7.7%
	サウジアラビア	13,064 4.1%	6,971 2.6%	5,045 1.9%	5,218 1.8%	5,490 1.7%	5,974 1.8%	6,154 2.2%	8,245 2.1%	10,153 2.2%	10,832 2.5%
	サブサハラ・アフリカ	28,725 9.0%	20,946 7.9%	18,168 7.0%	19,583 6.7%	21,569 6.7%	23,707 7.3%	21,367 7.8%	31,522 8.0%	41,434 9.2%	38,490 8.9%
	南アフリカ共和国	5,722 1.8%	3,814 1.4%	3,243 1.2%	4,072 1.4%	4,019 1.2%	3,983 1.2%	3,498 1.3%	5,989 1.5%	8,266 1.8%	8,020 1.9%
	ナイジェリア	2,872 0.9%	2,287 0.9%	1,743 0.7%	2,064 0.7%	2,746 0.9%	3,679 1.1%	2,954 1.1%	4,523 1.1%	5,340 1.2%	3,959 0.9%
	メキシコ	2,921 0.9%	2,768 1.0%	3,375 1.3%	3,697 1.3%	3,832 1.2%	3,735 1.2%	3,046 1.1%	4,162 1.1%	4,939 1.1%	5,284 1.2%
	ブラジル	7,141 2.2%	3,099 1.2%	2,300 0.9%	2,867 1.0%	3,579 1.1%	4,114 1.3%	3,676 1.3%	6,262 1.6%	9,724 2.1%	6,665 1.5%

(出所) “Direction of Trade Statistics”、IMF、UNCTAD Stat より作成

図表 3-11 主要輸入相手国

(単位：100万ドル/暦年)		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
輸入		459,369	390,745	356,705	444,052	507,616	478,884	367,980	570,402	732,566	672,140
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
先進国	日本	9,759	9,527	9,543	10,321	12,500	12,597	10,120	14,340	15,857	17,999
		2.1%	2.4%	2.7%	2.3%	2.5%	2.6%	2.8%	2.5%	2.2%	2.7%
	韓国	14,170	13,493	12,554	16,577	16,979	16,574	12,647	17,185	21,178	20,763
		3.1%	3.5%	3.5%	3.7%	3.3%	3.5%	3.4%	3.0%	2.9%	3.1%
	香港	10,012	10,889	11,833	17,122	17,986	17,461	14,583	18,777	22,476	17,267
		2.2%	2.8%	3.3%	3.9%	3.5%	3.6%	4.0%	3.3%	3.1%	2.6%
	シンガポール	9,918	9,796	8,803	9,745	14,183	13,998	10,810	16,207	20,498	14,750
		2.2%	2.5%	2.5%	2.2%	2.8%	2.9%	2.9%	2.8%	2.9%	2.2%
	米国	22,900	22,590	22,330	26,557	35,138	36,776	28,245	42,834	52,973	43,592
		5.0%	5.8%	6.3%	6.0%	6.9%	7.7%	7.7%	7.5%	7.2%	6.5%
先進国	ドイツ	13,234	12,177	11,835	13,264	15,247	13,794	11,503	14,579	15,846	18,258
		2.9%	3.1%	3.3%	3.0%	3.0%	2.9%	3.1%	2.6%	2.2%	2.7%
	オーストラリア	9,689	9,337	8,558	13,594	13,530	10,592	7,496	15,236	20,995	17,829
		2.1%	2.4%	2.4%	3.1%	2.7%	2.2%	2.0%	2.7%	2.9%	2.7%
	スイス・リヒテンシュタイン	22,775	22,790	15,582	21,550	19,034	18,995	11,621	32,022	16,717	18,933
		5.0%	5.8%	4.4%	4.9%	3.7%	4.0%	3.2%	5.6%	2.3%	2.8%
発展途上国	アジア	266,215	224,641	212,136	259,566	302,424	288,255	226,636	341,943	457,859	411,183
		58.0%	57.5%	59.5%	58.5%	59.6%	60.2%	61.6%	59.9%	62.5%	61.2%
	中国	60,687	64,347	63,266	74,792	79,902	76,073	65,836	97,024	118,222	121,304
		13.2%	16.5%	17.7%	16.8%	15.7%	15.9%	17.9%	17.0%	16.1%	18.0%
	スリランカ	686	821	680	735	1,207	935	691	984	1,046	1,008
		0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%
	バングラデシュ	542	632	717	606	945	1,212	1,026	1,752	2,041	1,888
		0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%
	ネパール	629	492	419	435	458	695	658	1,394	979	868
		0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%
	タイ	6,079	5,857	5,538	6,906	8,091	7,556	5,604	8,980	11,591	10,892
		1.3%	1.5%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.5%	1.6%	1.6%	1.6%
	ベトナム	2,841	2,766	3,069	4,220	7,306	7,500	5,664	7,017	9,057	9,335
		0.6%	0.7%	0.9%	1.0%	1.4%	1.6%	1.5%	1.2%	1.2%	1.4%
	マレーシア	11,174	9,498	8,672	9,047	10,305	10,408	7,681	12,089	13,907	11,473
		2.4%	2.4%	2.4%	2.0%	2.0%	2.2%	2.1%	2.1%	1.9%	1.7%
	インドネシア	14,822	13,753	11,837	16,192	15,798	14,539	11,755	15,786	27,823	24,140
		3.2%	3.5%	3.3%	3.6%	3.1%	3.0%	3.2%	2.8%	3.8%	3.6%
	中東	24,632	18,955	18,000	22,006	24,374	27,570	21,496	39,623	49,182	39,497
		5.4%	4.9%	5.0%	5.0%	4.8%	5.8%	5.8%	6.9%	6.7%	5.9%
	サウジアラビア	30,892	19,035	16,156	17,251	23,022	22,563	14,516	24,054	47,810	34,992
		6.7%	4.9%	4.5%	3.9%	4.5%	4.7%	3.9%	4.2%	6.5%	5.2%
	イラク	17,032	11,921	10,374	16,046	24,015	23,004	16,687	27,380	41,122	30,659
		3.7%	3.1%	2.9%	3.6%	4.7%	4.8%	4.5%	4.8%	5.6%	4.6%
	サブサハラ・アフリカ	35,830	28,496	21,895	30,226	34,785	31,735	20,888	34,461	41,404	31,296
		7.8%	7.3%	6.1%	6.8%	6.9%	6.6%	5.7%	6.0%	5.7%	4.7%
	南アフリカ共和国	5,266	5,105	4,416	5,891	5,885	5,687	5,178	8,018	8,813	8,391
		1.1%	1.3%	1.2%	1.3%	1.2%	1.2%	1.4%	1.4%	1.2%	1.2%
	ナイジェリア	16,313	9,818	6,947	8,597	11,254	10,377	6,100	8,867	8,733	4,581
		3.6%	2.5%	1.9%	1.9%	2.2%	2.2%	1.7%	1.6%	1.2%	0.7%
	ケニア	127	109	129	69	118	79	89	138	102	112
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	南米	3,298	2,416	2,419	3,729	5,036	3,946	2,506	3,497	3,535	2,784
		0.7%	0.6%	0.7%	0.8%	1.0%	0.8%	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%
	ブラジル	5,572	4,155	3,488	5,213	4,527	3,083	3,205	5,096	7,190	5,798
		1.2%	1.1%	1.0%	1.2%	0.9%	0.6%	0.9%	0.9%	1.0%	0.9%
	ベネズエラ	14,030	7,002	5,231	6,124	7,645	5,874	2,403	101	235	192
		3.1%	1.8%	1.5%	1.4%	1.5%	1.2%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%

(出所) “Direction of Trade Statistics”、IMF、UNCTAD Stat より作成

図表 3-12 国別の貿易収支の推移

(単位：100万ドル/暦年)		2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
貿易収支		-141,825 100.0%	-126,364 100.0%	-96,378 100.0%	-149,688 100.0%	-185,124 100.0%	-155,633 100.0%	-92,492 100.0%	-175,588 100.0%	-279,882 100.0%	-240,728 100.0%
先進国	日本	-4,002 2.8%	-4,997 4.0%	-5,716 5.9%	-5,823 3.9%	-7,759 4.2%	-7,782 5.0%	-6,077 6.6%	-8,263 4.7%	-10,157 3.6%	-12,915 5.4%
	韓国	-9,376 6.6%	-9,883 7.8%	-9,089 9.4%	-12,200 8.2%	-12,171 6.6%	-11,920 7.7%	-8,130 8.8%	-10,081 5.7%	-13,680 4.9%	-14,478 6.0%
	米国	19,785 -14.0%	17,722 -14.0%	19,662 -20.4%	19,461 -13.0%	16,523 -8.9%	17,512 -11.3%	21,076 -22.8%	28,677 -16.3%	27,257 -9.7%	32,213 -13.4%
	オーストラリア	-7,096 5.0%	-6,085 4.8%	-5,609 5.8%	-9,718 6.5%	-9,796 5.3%	-7,618 4.9%	-4,025 4.4%	-8,319 4.7%	-12,788 4.6%	-10,107 4.2%
	オランダ	3,950 -2.8%	2,676 -2.1%	2,857 -3.0%	2,902 -1.9%	5,319 -2.9%	5,577 -3.6%	3,585 -3.9%	6,455 -3.7%	13,417 -4.8%	19,381 -8.1%
発展途上国	アジア	-105,369 74.3%	-94,114 74.5%	-84,617 87.8%	-111,513 74.5%	-143,556 77.5%	-133,335 85.7%	-97,714 105.6%	-162,417 92.5%	-264,239 94.4%	-233,440 97.0%
		中国	-47,253 33.3%	-54,770 43.3%	-54,350 56.4%	-62,297 41.6%	-63,526 34.3%	-58,795 37.8%	-46,827 50.6%	-73,987 42.1%	-103,137 36.9%
		スリランカ	5,749 -4.1%	4,680 -3.7%	3,438 -3.6%	3,678 -2.5%	3,461 -1.9%	3,292 -2.1%	2,533 -2.7%	3,816 -2.2%	2,570 -1.9%
		バングラデシュ	5,714 -4.0%	4,889 -3.9%	4,951 -5.1%	6,604 -4.4%	7,800 -4.2%	7,031 -4.5%	6,887 -7.4%	12,341 -7.0%	11,793 -4.2%
		ネパール	3,565 -2.5%	2,703 -2.1%	4,107 -4.3%	5,083 -3.4%	6,844 -3.7%	6,414 -4.1%	5,196 -5.6%	7,796 -4.4%	6,380 -2.7%
		パキスタン	1,673 -1.2%	1,551 -1.2%	1,164 -1.2%	1,370 -0.9%	1,855 -1.0%	1,114 -0.7%	281 -0.3%	501 -0.3%	619 -0.2%
		タイ	-2,641 1.9%	-2,743 2.2%	-2,576 2.7%	-3,318 2.2%	-3,705 2.0%	-3,224 2.1%	-1,827 2.0%	-3,464 2.0%	-5,551 2.0%
		ベトナム	3,685 -2.6%	2,591 -2.1%	2,888 -3.0%	3,895 -2.6%	-604 0.3%	-1,987 1.3%	-1,164 1.3%	-378 0.2%	-3,176 1.1%
		マレーシア	-6,532 4.6%	-4,606 3.6%	-4,483 4.7%	-3,501 2.3%	-3,751 2.0%	-4,140 2.7%	-1,487 1.6%	-5,384 3.1%	-6,717 2.4%
		インドネシア	-10,377 7.3%	-10,884 8.6%	-8,706 9.0%	-12,430 8.3%	-11,006 5.9%	-10,024 6.4%	-7,391 8.0%	-7,697 4.4%	-17,956 6.4%
	中東	UAE	8,287 -5.8%	11,034 -8.7%	12,042 -12.5%	6,631 -4.4%	4,167 -2.3%	1,969 -1.3%	-3,542 3.8%	-14,176 8.1%	-17,859 6.4%
		サウジアラビア	-17,829 12.6%	-12,065 9.5%	-11,110 11.5%	-12,033 8.0%	-17,531 9.5%	-16,589 10.7%	-8,362 9.0%	-15,808 9.0%	-37,657 13.5%
		イラン	-5,212 3.7%	-2,473 2.0%	-4,778 5.0%	-6,834 4.6%	-9,226 5.0%	266 -0.2%	1,760 -1.9%	490 -0.3%	1,154 -0.4%
	サブサハラ・アフリカ		-7,105 5.0%	-7,550 6.0%	-3,727 3.9%	-10,643 7.1%	-13,216 7.1%	-8,028 5.2%	480 -0.5%	-2,939 1.7%	30 0.0%
		ナイジェリア	-13,441 9.5%	-7,531 6.0%	-5,204 5.4%	-6,533 4.4%	-8,507 4.6%	-6,698 4.3%	-3,147 3.4%	-4,344 2.5%	-3,392 1.2%
	南米	ベネズエラ	-13,792 9.7%	-6,843 5.4%	-5,158 5.4%	-6,043 4.0%	-7,572 4.1%	-5,633 3.6%	-1,645 1.8%	211 -0.1%	-47 0.0%

(出所) “Direction of Trade Statistics”、IMF、UNCTAD Stat より作成

4. 人口大国の中のインド

(1) 世界第1位の人口大国であるインド

IMF の「World Economic Outlook」(2025 年 4 月)によると、2023 年時点のインドの人口は 14 億 2,863 万人と、中国を抜いて世界第1位の人口大国となった(図表 3-13)。

人口の多いインドは経済規模も大きい。2023 年の名目 GDP は 3.6 兆ドルと、世界第6位の規模を誇っている。他方、1 人あたり GDP で表される所得水準は低い。同年のインドの所得水準は 2,547 ドルと、比較可能な 193 カ国・地域中、145 位と下位に位置している。

人口の多い上位10カ国の中には、インドと同じ南アジアに位置するパキスタン（5位）とバングラデシュ（8位）が含まれているが、所得水準はインドとほぼ同程度か低い水準にあり、また南アジア諸国の多くが4,000ドルを下回っている。

図表 3-13 インドと世界の人口大国との比較表（2023年）

	人口 万人	面積 1,000 km ²	名目GDP billion USD	名目GDP 億ドル	1人あたりGDP ドル
インド	142,863 (1)	3,287	3,638	36,385 (6)	2,547 (145)
中国	140,967 (2)	9,600	18,270	182,704 (2)	12,961 (65)
米国	33,701 (3)	9,834	27,721	277,207 (1)	82,254 (6)
インドネシア	27,870 (4)	1,892	1,371	13,712 (17)	4,920 (117)
パキスタン	23,145 (5)	796	338	3,378 (43)	1,459 (160)
ナイジェリア	22,218 (6)	924	364	3,638 (32)	1,637 (151)
ブラジル	21,170 (7)	8,510	2,191	21,911 (13)	10,350 (87)
バングラデシュ	17,028 (8)	148	452	4,515 (42)	2,652 (149)
ロシア	14,630 (9)	17,098	2,060	20,598 (11)	14,079 (66)
メキシコ	13,114 (10)	1,964	1,794	17,938 (16)	13,679 (73)
【参考】					
ASEAN	67,977	7,168	3,797	37,971	5,586
EU28	51,829	4,377	21,980	219,798	42,408
EU28（除く英国）	44,979	4,132	18,609	186,087	41,372
USMCA（3カ国）	50,812	21,783	31,688	316,879	62,363

（注） 面積は2023年のデータ（世界と台湾のみ2020年のデータ）

（出所）IMF、“World Economic Outlook (2025/4)”、国際連合資料より作成

（2）近隣諸国との間の貿易額の変化

ASEAN域内で関税撤廃の動きがあるように、インドをはじめとした南アジア諸国の間でも、二国間FTAや南アジア地域協力連合（South Asian Association for Regional Cooperation：SAARC）加盟国による南アジア自由貿易地域（South Asian Free Trade Area：SAFTA）など、関税撤廃の動きが見られる。ただし、2006年に発効したSAFTAはセンシティブリスト品目数が多く、ASEANの域内FTA（ASEAN Trade In Goods Agreement：ATIGA）並みの動きには至っていない。

しかし、それでも近隣諸国との貿易額は増えている。SAARC8カ国（インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、アフガニスタン、モルディブ、ブータン）間の貿易額は2008年の149億ドルから2024年には341億ドルと、2.29倍に増加している（図表3-14）。

インドはこの間に、パキスタンとアフガニスタンを除く近隣諸国向けの輸出額を増やしており、インドからSAARC8カ国向けの輸出額は146億ドル増加した（図表3-14を縦方向に合計）。特に、バングラデシュやネパールへの輸出の増加が大きく影響している。一方、パキスタンを除く各国からのインド向け輸出も成長しており、8カ国合計でのインド向け輸出（図表3-14を横方向に合計）はこの間で20億ドル増えている。つまり、インドは当該16年間で、近隣諸国からの輸出先

となる以上に、近隣諸国向けの輸出を増やしたことになる。他方、パキスタンとアフガニスタンを除く近隣諸国では、インドからの輸入がインドを含む近隣諸国向けの輸出を上回っている。

図表 3-14 SAARC 諸国間の貿易額の変化（2008 年→2024 年）

		輸出元国								
		(単位：100万ドル)								
輸出先国	年	インド	パキスタン	バングラデシュ	スリランカ	ネパール	アフガニスタン	モルディブ	ブータン	Total
インド	2008		354.64	318.82	418.67	562.91	132.00	1.96	495.78	2,284.78
	2024		0.14	1,655.35	886.48	746.49	218.45	3.85	780.90	4,291.67
	Diff		-354.50	1,336.53	467.81	183.58	86.45	1.90	285.12	2,006.89
パキスタン	2008	1,779.27		78.50	71.41	1.18	264.32	-	-	2,194.68
	2024	1,183.10		58.06	75.86	1.38	121.46	0.02	0.02	1,439.90
	Diff	-596.17		-20.44	4.45	0.20	-142.86	0.02	0.02	-754.78
バングラデシュ	2008	2,969.72	422.34		23.12	66.50	-	-	14.60	3,496.28
	2024	11,317.82	780.22		239.29	6.03	0.09	2.90	3.25	12,349.59
	Diff	8,348.10	357.89		216.17	-60.47	0.09	2.90	-11.35	8,853.32
スリランカ	2008	2,880.51	216.72	11.05		1.32	-	12.03	-	3,121.63
	2024	4,715.24	429.14	57.15		0.21	-	1.56	0.02	5,203.31
	Diff	1,834.73	212.42	46.10		-1.11	-	-10.47	0.02	2,081.68
ネパール	2008	1,706.86	0.75	6.01	0.19		-	-	4.52	1,718.33
	2024	6,951.28	2.45	40.00	3.86		-	-	5.40	7,003.00
	Diff	5,244.42	1.70	34.00	3.67		-	-	0.88	5,284.67
アフガニスタン	2008	362.27	1,447.62	2.32	0.35	0.04		-	-	1,812.60
	2024	333.52	1,305.64	12.82	0.73	0.11		-	-	1,652.82
	Diff	-28.75	-141.98	10.50	0.38	0.07		-	-	-159.78
モルディブ	2008	109.70	6.36	-	47.70	0.06	-		0.26	164.08
	2024	825.06	9.41	5.03	151.36	0.30	-		-	991.16
	Diff	715.36	3.05	5.03	103.66	0.24	-		-0.26	827.07
ブータン	2008	109.10	0.02	3.16	-	2.36	-	-		114.65
	2024	1,173.23	0.00	12.12	0.00	3.44	-	-		1,188.78
	Diff	1,064.12	-0.01	8.95	0.00	1.08	-	-		1,074.14
Total	2008	9,917.44	2,448.44	419.86	561.44	634.37	396.32	13.98	515.16	14,907.02
	2024	26,499.26	2,527.01	1,840.52	1,357.58	757.95	339.99	8.33	789.59	34,120.23
	Diff	16,581.82	78.56	1,420.66	796.13	123.58	-56.32	-5.65	274.43	19,213.21
輸出増－輸入増 (注)		+14,574.93	+833.34	-7,432.66	-1,285.55	-5,161.09	+103.45	-832.72	-799.70	

(注) 統計誤差などのため、輸出から見た上記図表 3-14 は、輸入から見た数値とは必ずしも一致しない
(出所) IMF 資料より作成

(3) 賃金コストで比較したインドの位置付け

図表 3-15 は、JETRO の投資コスト比較調査（2024 年度調査）をもとに、製造業、非製造業のそれぞれの主要職位ごとに、「月間基本給」（上段）と残業代や賞与などの年間支給分から求められた「実質月額給与」（下段）を示している。これによると、インドの賃金コストの特徴として、①国内大都市の賃金コストの高さと都市間格差の大きさ、②アジアの他都市と比べた職種間の賃金格差の大きさなどを指摘できる。

1 点目のインド国内での賃金格差については、日系企業が多く進出しているインドの主要 5 都市（ニューデリー、ムンバイ、ベンガルール、チェンナイ、アーメダバード）で比較すると、製造業のワーカーに関しては、人口が相対的に多いニューデリー、ムンバイ、ベンガルールの給与水準が、チェンナイやアーメダバードに比べて高い傾向にあり、チェンナイ、アーメダバードの水

準は、ベトナムやフィリピンと同水準にある。ただし、エンジニアや中間管理職に関しては、近年チェンナイやアーメダバードの賃金が伸びており、ニューデリーなどの大都市と比べても遜色なく、中間管理職に関してはより高い水準となっている。この背景には、両都市が「メイク・イン・インド」の重点地域として、自動車や半導体などの製造業の集積が進んでいることが考えられる。ニューデリー、ムンバイ、ベンガルールにおける製造業のワーカーは、フィリピンとタイの間程度の水準、製造業の中間管理職と非製造業ではタイのバンコクを少し下回る程度の水準となっている。

2点目の特徴である「職種間の賃金格差」を見ると、インド（ニューデリー）の場合、製造業のエンジニアの給与水準はワーカーの約1.5倍、中間管理職では約3.0倍である。前回2022年の調査時点の格差は、それぞれ2.0倍、6.0倍だったことを考慮すると、ここ2〜3年で給与格差は大幅に縮小したといえる。インド以上に格差が大きいのは、南アジアのパキスタン（カラチ）、スリランカ（コロンボ）、バングラデシュ（ダッカ）、東南アジアのラオス（ビエンチャン）、カンボジア（プノンペン）、ミャンマー（ヤンゴン）と、インドよりも所得水準が低い国に集中している。

図表 3-15 インド・中国・ASEAN 諸国・南アジア主要国との賃金コストなどの比較

国名 1人あたりGDP	都市名 人口	製造業			非製造業	
		ワーカー	エンジニア	中間管理職	スタッフ	マネージャー
インド 2,711 ドル	ニューデリー 3,223 万人	448 (460)	673 (745)	1,359 (1,735)	735 (919)	1,850 (2,357)
	ムンバイ 2,497 万人	337 (476)	543 (843)	1,490 (2,003)	696 (779)	1,777 (1,981)
	ベンガルール 1,539 万人	396 (547)	587 (893)	1,347 (1,975)	720 (895)	2,116 (2,556)
	チェンナイ 1,240 万人	289 (361)	555 (688)	1,505 (1,994)	735 (1,073)	1,862 (2,196)
	アーメダバード 801 万人	287 (353)	589 (725)	1,524 (1,771)	- -	- -
中国 13,313 ドル	北京 1,852 万人	970 (1,440)	1,119 (1,661)	1,946 (2,770)	1,455 (2,156)	2,855 (4,087)
	上海 2,407 万人	832 (1,512)	1,434 (2,016)	2,217 (3,008)	1,291 (1,911)	2,625 (3,907)
	広州 2,694 万人	721 (1,324)	1,013 (1,786)	1,662 (2,621)	1,246 (1,867)	2,888 (4,452)
マレーシア 12,541 ドル	クアラルンプール 891 万人	490 (699)	917 (1,246)	1,773 (2,427)	1,023 (1,363)	2,179 (2,945)
タイ 7,492 ドル	バンコク 1,801 万人	437 (644)	781 (1,112)	1,622 (2,173)	844 (1,098)	1,709 (2,276)
インドネシア 4,958 ドル	ジャカルタ 3,376 万人	475 (695)	600 (841)	1,295 (1,966)	545 (848)	1,289 (1,744)
	パタム 151 万人	318 (468)	432 (646)	955 (1,160)	380 (528)	1,456 (1,847)
フィリピン 4,079 ドル	マニラ 2,492 万人	314 (382)	478 (594)	1,042 (1,343)	567 (779)	1,472 (2,040)
	セブ 252 万人	243 (315)	380 (478)	873 (1,092)	633 (867)	1,366 (1,649)
ベトナム 4,536 ドル	ハノイ 755 万人	278 (383)	520 (693)	1,121 (1,491)	797 (988)	1,688 (2,174)
	ダナン 157 万人	301 (392)	450 (619)	666 (869)	523 (749)	1,240 (1,819)
	ホーチミン 1,514 万人	329 (457)	619 (839)	1,215 (1,644)	759 (983)	1,537 (1,997)
ラオス 2,066 ドル	ピエンチャン 71 万人	115 (175)	203 (277)	672 (739)	336 (334)	751 (1,063)
カンボジア 2,755 ドル	プノンペン 246 万人	243 (300)	453 (557)	1,049 (1,267)	656 (759)	1,398 (1,622)
ミャンマー 1,114 ドル	ヤンゴン 687 万人	148 (180)	351 (454)	713 (849)	508 (600)	1,381 (1,682)
パキスタン 1,581 ドル	カラチ 1,574 万人	151 (235)	391 (515)	824 (1,064)	411 (521)	924 (1,142)
スリランカ 4,325 ドル	コロンボ 358 万人	139 (232)	236 (473)	640 (565)	296 (360)	765 (872)
バングラデシュ 2,622 ドル	ダッカ 1,863 万人	95 (143)	241 (370)	567 (871)	370 (487)	885 (1,171)

(注1) 各都市の上段は正規雇用者の月額基本給（ドル）、下段は、「基本給、諸手当、社会保障、残業代、賞与などを含む年間総支給額」を12か月で割った実質月間コスト（ドル）

(注2) 1人あたりGDPは2024年、人口は2022年のデータ

(出所) IMF、JETROより作成賃金コストで比較したインドの位置付け